

【大阪市】火災調査業務(実況見分)支援端末

課題の背景

我が国では年間約4万件の火災が発生しており、全国728の消防本部において、それら全ての火災の原因及び損害について調査を行っている。これらの調査書類は、火災現場で撮影した写真やメモ等の資料をもとに、現場活動終了後にパソコンで作成している。

特に被害の大きな火災の実況見分では、膨大な資料を整理しつつ書類を作成しなければならず、多大な労力が必要となる。また、火災現場においては、消火活動と調査活動とを同時に行う必要があるため、写真の撮り忘れやメモの取り忘れ等が発生するおそれも否定できない。

全国的にベテラン職員の大量退職を迎えている中、火災調査の精度低下を防ぐため、火災調査経験の少ない若年層職員でも火災調査を効率良く行うためのツールが求められている。

さらに、近年、自然災害により大規模な被害が多発している状況に鑑み、り災証明書等の早期発給や迅速な被災者支援のためには、より効率的に被害状況の記録を行い、より早期に調査書類を作成することが求められる。

求められる要件(機能要求・関連基準等)

タブレット端末等に、次のような機能を搭載する。

- 所定の様式を取り込んだうえ、当該様式に撮影した写真を添付するとともに、テキスト入力や音声認識機能により、必要な情報を文字にして実況見分記録として保存できるもの。
- 写真や文書で構成される調査書類の作成が、火災現場での実況見分時に行えるもの。
- 端末に保存された情報については、消防機関が共有できるパソコン等で取込みが可能であるもの。
- 火災調査統計作業に必要なデータ等も入力可能で、各消防署から消防本部への統計報告までが可能であるもの。
- マイクロソフトオフィスが使用可能なもの。
- データ通信が可能なもの。